

令和6年度プロジェクト課題計画

資料3

課題No. 2				
課題名 「北浦梨」産地の活性化に向けた、ICT活用による栽培の「見える化」 (「園芸振興」関連課題)				
計画期間	令和6年度～令和8年度			
対象名及び対象者数	JA新みやぎ北浦梨部会若手生産者1人、役員等3～4人(部会員35人)、株式会社ファームおてんとさん栽培担当者2人			
課題の背景	<ul style="list-style-type: none"> 大正時代から始まった美里町の「北浦梨」は、令和5年4月現在の栽培面積は約10ha、生産者は約40人で、「水稻+園芸」の複合経営主体の産地である。 自宅敷地内に園地がある生産者が多く、経営継承は主に家族・親族間が多いが、令和3年に(株)ファームおてんとさんが継承・新規参入し、産地の維持・発展に向けた新たな形が生まれた。 産地の維持、活性化に向けて、後継者に栽培技術の継承していく仕組みづくりが重要となってくる。 多くの生産者が、気象庁アメダス観測地点と園地の気象経過に差異を感じている。令和3年及び令和5年の開花期～幼果期に凍霜害が発生したほか、病虫害発生・防除時期の前進や延伸が生じており、園地ごとの気象データや病虫害発生状況の把握が必要である。 施肥や薬剤散布等の栽培管理の記録や経営管理記帳は主に紙で行われている。普及センターの技術情報についても紙で発信しているが、タイムリーに情報を収集、発信するためにはデジタル化が不可欠である。また、蓄積したデータについて、生産者間での比較検討や経営改善への活用、円滑な経営継承を行う上でも電子データでの記録・整理・蓄積が必要である。 凍霜害や病虫害の影響や、技術対策の効果検証、記録・蓄積したデータを活用した経営改善など、ICTを活用した管理手法を確立し、産地の活性化を図る。 			
期待される対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> 園内の気象経過や病虫害発生状況、栽培管理等を電子データで「見える化」して記録し、病虫害防除計画や作業計画の策定及び生産者間の比較・情報共有等が行われるようになる。 若手生産者等が「北浦梨」生産にかかる収支状況を把握し、経営管理が行われるようになる。 			
担当チーム員	<table border="1"> <tr> <td>◎曾根 晴佳、佐々木 美和、佐藤 泰征、 佐藤 典子、齋藤 憲治</td> <td>担当班及び 進行管理責任担当者</td> <td>先進技術班 木村 政浩</td> </tr> </table>	◎曾根 晴佳、佐々木 美和、佐藤 泰征、 佐藤 典子、齋藤 憲治	担当班及び 進行管理責任担当者	先進技術班 木村 政浩
◎曾根 晴佳、佐々木 美和、佐藤 泰征、 佐藤 典子、齋藤 憲治	担当班及び 進行管理責任担当者	先進技術班 木村 政浩		
令和6年度				
成果指標	<p>定性的目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 園内の気象経過や病虫害発生状況等を把握し、栽培管理とあわせて電子データで「見える化」して記録・情報発信できるようになる。 若手生産者等の経営管理に関する基礎知識が習得される。 			
	<p>定量的数値目標</p> <p>栽培・経営管理データ活用事業者数：令和6年度 0 →令和7年度 0 →令和8年度 2</p>			
活動指標	<p>定量的数値指標(合計総現地活動日数 75日)</p>			
	<p>活動事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 栽培環境の「見える化」支援(26日) (気温、湿度、風量等の凍霜害・高温障害等発生に係る気象データ収集展示ほの設置【データロガー等の設置・分析】、活動対象者及びベテラン生産者の栽培管理記録及び栽培管理の振り返り支援) 病虫害発生の「見える化」支援(21日) (シンクイムシ類・カメムシ類等の発生消長確認に係るフェロモントラップの設置・調査、メッセージアプリケーションを活用した、活動対象者及びベテラン生産者間の病虫害発生状況等の情報交換及び普及センター技術情報発信等のネットワークづくり) 経営の「見える化」支援(28日) (経営管理講座の実施、複式簿記指導等) 			
関係機関の主な役割分担項目				
<ul style="list-style-type: none"> JA新みやぎ(部会研修会開催、事業導入支援) ・美里町産業振興課(経営体育成支援、事業導入支援等) 農業振興課、農業・園芸総合研究所、病虫害防除所(展示ほ設置・運営に係る助言、生産技術支援等) 				
関連事業名と役割				